

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090100043
法人名	有限会社田代総合サービス
事業所名	グループホームなごみ吉志
所在地	福岡県北九州市門司区吉志1丁目8番42号
自己評価作成日	平成25年10月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成25年11月6日	評価結果確定日	平成26年1月22日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①利用者様が“快”と思う、感じることを優先していく                  ②利用者様と介護者が家族的(親・子・孫・嫁)関係の状態で介護現場を維持！                  ③職員のスキルアップ向上を常に図ることで自己能力を研鑽していく</p> <p>※自然環境の残っている位置の立地にて施設の裏側の川には、白鷺が時々、飛来したり鴨が数羽泳いでいます。又、近隣小学校の生徒の可愛い姿や声が聞こえ、夏になると川で小魚をすくう姿がみえます。一方では住宅街が広がり、少し歩くとスーパーや公園、他施設が隣接して、「静・動」両面が兼ね備わった恵まれた環境化の中で、利用者様と共に毎日をご過ごしております。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームなごみ吉志は、複合公共施設(地域交流センター・市民センター・図書館等)や公園、スーパー等が近隣に位置する利便性の高い住環境の中にあり、1階には小規模多機能型事業所、2階が1ユニットのホームとなる。開設して7年目を迎える中で、代表者、管理者は、個々の職員への理念の浸透を実感しているところであり、少しずつ重度化している中で、入居者の方々の豊かな感情表現や、職員との賑やかな掛け合いから、信頼関係や本人本位に基づく日々の関わりがうかがえる。医療機関との密な連携や看護計画の作成に表れる医療ニーズへの意識の高さ、また、家族との情報共有や、観察力を高めるための日常的な職員教育等、安心して暮らし続けることが出来るよう環境作りに取り組んでいる。今後も地域の中での存在を高めながら、個別支援の追求が大いに期待される事業所である。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の基本である”目配り、気配り、心配り”を常に念頭におき、管理者と職員は理念を把握、実践に向けて…日々、とりこんでいる	「目配り」「気配り」「心配り」をひもときながら、職員教育を行っている。関わる全ての方々が対象であることの意味を共有しながら、実践に結び付けている。代表者や管理者は、開設して7年目を迎える中で、理念の浸透を実感として感じている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地的環境により多々、難しい点もあるが地域小学校の運動会見学、また支援センターの催事には利用者様と出向くなど、少しずつであるが交流参加に努めているまた福祉学校の実習生などの受け入りの対応に努めている	町内会に加入し、廃品回収等の地域活動に参加している。近隣には小学校が位置し、運動会等の行事の際には声かけも頂き、見学を行なっている。近隣の複合公共施設(地域交流センター・市民センター・図書館等)の利用を通じた交流や、散歩時の挨拶等を通じて、自然体での交流を重ねている。実習生の受け入れや見学に対応する機会も多い。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの運営理念や役割が地域に理解されるように啓発、広報に取り組んでいる。通りに面してホームの看板が見えるようにしており…また見学希望者の対応に、快く応じている	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設する小規模多機能型事業所と合同で、二ヶ月に一回、定期的開催し状況報告や意見交換を行い…サービス向上に活かせるよう、取り組んでいる。ただご家族との情報提供や連携は他の方法で、図られているが会議への出席が少ない状況にある	併設される小規模多機能型事業所との合同開催となり、民生委員、地域包括支援センター職員、必要に応じて警察官等の出席を得ながら、定期開催されている。運営推進会議の意義についても共有認識を図りながら、家族の参加機会の拡大に向けた工夫や配慮を継続していく意向である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村(区役所)に日頃から行き来する機会をつくり担当者と共にサービス向上に取り組んでいる 「市町村主催の催事および研修案内に参加する」 「地域包括支援センターとの情報交換」 「介護保険の更新手続き、訪問調査依頼」等	運営推進会議には、地域包括支援センター職員の出席を得ている。行政の主催する研修参加や、日頃から、情報共有を図りながら協力関係を築くようにしている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者および、すべての職員が「介護保険法指定基準に、おける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解している。”やむおえず”の場合に関しては、ご家族との話し合いにより『身体拘束に関する説明書』の記載要綱を熟読の上で許可をいただいている	年間研修計画の中に、身体拘束に関する事例検討等を位置付けながら理解を深め、共有認識を図っている。現在、対象となる方はいない。止むを得ない事例にも、解除の視点を明確にしながら、様々なアプローチを行なっている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護者としての意識を常にふまえ利用者様に接しており身体的…言葉の虐待をおこなわないよう、こころがけている。それと関連研修の参加に努め勉強会などの課題として職員間で再認識している	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や、成年後見制度について学ぶ研修(機会)をもち、研修内容を職員間で把握し理解できている。また、施設に後見制度を利用している方がいる為、ケアマネが その対応に当たっている	権利擁護に関する制度については、年間研修計画の中で対応方法やグループ演習を位置付け、職員の理解を深めている。現在、制度を活用している方もおり、支援の過程を通じて学ぶ場面もある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホームの運営理念を契約時に説明し、文書をホームの見やすい場所に明示している。また、入居後も…ご家族に疑問点があれば詳細に説明し、納得していただけるように、こころがけている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談、苦情などを受け入れる窓口を設けており ご家族の意見を尊重することでケアの改善に努めている。また家族会を開いて参加していただき、その折に意見交換をしている。ただ運営推進会議には残念ながら、参加することは少ない状況にある	併設事業所との合同で、年1回、家族との親睦会を開催し、コミュニケーションを深めている。また、日頃から情報共有を図りながら、意見や要望の収集に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な"ミーティング"や勉強会を開き、意見交換や情報提供およびケアの改善などを話し合うことで…業務改善や運営をスムーズに行えるよう努めている	月例ミーティングや勉強会の中では、活発な意見交換が行われ、ケアの向上や業務改善に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員間のチームワークで楽しい職場と、なっており職員には常に研修参加によるスキルアップに努めている。また、労働時間、シフト作成については負担軽減し心身の健康面を考慮。また昇給、ボーナス、福利厚生と、働きやすい環境づくりに努めている。年間行事として…(忘年会、新年会、歓迎会、その他)等		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集、採用に当たっては年齢や(定年なし)性別制限は、してなく事業所で働く職員には個々の能力が発揮できるような環境の場を設けており、職員一人ひとりの尊厳も保たれている	職員の採用にあたり、ヘルパー2級以上という資格要件は設けているが、年齢や性別による排除は行われていない。定年制も設けておらず、現在、職員体制は安定している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内外部の研修参加を推奨し、職員の自己向上に…についてバックアップすると共に指導・責任を啓発している。また職員同士の協働…調和もとれている	行政主催やグループホーム協議会の研修を案内している。また、内部での研修計画の中に位置付けながら、様々な視点から人権教育、啓発に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップの為に内外の研修参加を職種、経験・個々の必要性を尊重、および重視して計画、実施をしている。また、状況に応じ管理者は個人面接を行い職員の悩み、要望などの相談も受けている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会および施設外の研修参加に於いて他施設との情報交換の中から”プラス”になることを吸収・・・学び、施設のサービス向上につなげている		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者個々の、心身状態を ご家族から情報収集をして状態、状況に応じ個人にあった対応考慮。また傾聴、共感的対応に努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、後・・・ご家族の意見や要望を受けて納得していただけるよう説明し、関連書類などを提示するなどゆっくり対応することで、不信、不安、不満感を除去し信頼関係を築いている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状態像、生活歴、入居者と家族の求めている事柄を受け入れ新環境の中・・・心身共に無理なく、環境順応できるよう支援している		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員が一体と、なって家族关系的な状況の中で過ごしていただいております、その中でも尊厳を損なうことなく一定の規律を守り対応している		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連携を保ち、必要に応じての電話連絡および毎月の”ホームだより”に心身状態や生活関連の情報を送付し利用者様の状態が常に、ご家族が把握できる工夫をしている		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、知人の来訪歓迎。また利用者様の趣味などを把握し、それに応じた対応考慮。および居室内環境(本人の馴染み家具や物品、視空間)継続環境維持に配慮、支援できるように努めている	これまでの暮らしに関する情報収集に努め、馴染みの関係性の把握に努めている。家族や知人、自宅近所の方の来訪を歓迎している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に 努めている	介護度、認知度、身体状態を常に職員が把握し・・・ 利用者間の調和・・・トラブル防止に努め相互の関係が うまく図れるよう留意している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性 を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過を フォローし、相談や支援に努めている	退去、他施設への移動後も電話連絡・・・その他と フォローを行い、必要に応じて相談、連絡維持している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に 努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の人格を尊重し、本人の能力に合わせた 対応・・・また身体面の安楽を常に重視しながら傾聴 受容、共感を常にこころがけている	日常の中での発言や表情、仕草等から気づきを 得ながら、職員間で共有検討を行い、思いや意 向の把握に努めている。個人記録は、個別の言 葉や行動に加え、職員が考え行動したことが記 載できるようになっており、日常の様子や支援の 過程が共有しやすい。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	利用者様の生活歴、背景、職業、経験などを・・・ できれば本人から聞いたり無理な場合は、ご家族から 情報収集し”メモリーケア”に努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力 等の現状の把握に努めている	生活記録を職員間で共有し、利用者様の心身状態や ペースに応じた個別的対応に努めている (介護度、身体機能、理解力、嚥下機能、その他)等		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につ いて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、そ れぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した 介護計画を作成している	利用者様の心身状態の変化、ご家族の要望や意見 などを反映させ、月に一度のカンファレンス および ミーティングに於いて、アセスメントを行い評価・分析 して計画作成している。また、状態変化に際しては・・ 臨機応変、職員間で、話し合い検討し、前後の対応と して、ご家族に連絡相談の形をとっている	本人、家族の意向を踏まえ、担当者が原案作成 に能動的に取り組み、職員間での協議を経て、 介護計画を作成している。詳細なモニタリングや 毎月のカンファレンス、ミーティングを通じて、現 状の確認と見直しの必要性について検討してい る。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に残し、心身状態の変化など職員間で内容 を共有。また業務に反映させ、それを元に介護計画・・ ケアの見直しに活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族との外出。および個々に応じた”リハビリ”また施設内外での”レクリエーション”、年間行事を実施！その他、誕生日会実施し、施設からプレゼントを贈呈また、医療との連携(受診、往診)、電話対応、理髪対応など、多くの柔軟な支援に取り組んでいる		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防署協力の火災避難訓練、派出所の協力市民センターの利用・近隣のスーパーに利用者様と買い物。また公園での散歩などと地域資源の存在を有意義に活用させていただいている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診。利用者様により受診と状態により実施している。また、専門医との連携維持にて常に健康管理に努めている(臨時受診については家族に相談、報告していることで信頼関係ができています)それと看護計画の作成し、ご家族来訪時に確認をさせていただいている	入居時に、本人、家族の希望するかかりつけ医について確認を行なっている。また、協力医による月2回の訪問診療や、専門医への受診等、適切な医療を受けられるよう支援している。週1回、訪問歯科診療及び口腔ケア、嚥下リハビリ等が実施されている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の身体異変に、については すぐに対応できる状況にある。日頃より健康状態を記録し身体変化については、即時、看護師に報告し、指示に従い対応協力体制が整っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報提供、相談できる状況、状態を維持できており施設関係者は個々、お見舞いに行っている。それと退院時の「サマリー」により職員で早速アセスメントを行い退院後のケアに活かしている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について、対応方針を定め状況、状態の変化に伴い、ご家族・医師・看護師および介護者を交え話し合いの場を設け、現状に於いて限りある範囲でのケアに努められるよう意識している。また利用者様が、その状況になった時 配慮ある対応が、十分にできるよう職員の指導にも努めている		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成しており事故発生時および、利用者様の急変時の対応、処置の意識徹底に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的(年に二回)消防署の、協力を得て避難訓練を実施し避難先の確保とつさの対応などの見直し。また講習会参加や、勉強会に公開して職員間で勉強する場を設け意識浸透を図っている	年2回、消防署の協力を得ながら、昼夜を想定した避難訓練を実施している。火災や風水害対応マニュアルを作成し、今後はミーティングにて検討を行いながら、即時対応可能な手順書の作成を予定している。	内部研修では課題を明確にしなが、非常災害時の対応について意識を高めている。今後は、地域との連携についても確認する機会を持つ等、相互の連携について働きかけを継続していくことが期待されます。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の徹底に努め、利用者様を尊重する気持ちを大切にすると共に介護者としての守るべき態度を認識し、個人情報保護について把握している。言葉かけは一人一人の個性を重視し・・・それぞれに親しみのある対応、声かけで行っている	理念とされる「目配り」「気配り」「心配り」の浸透に向けた職員教育や、内部での勉強会にて共通認識を図っている。日常の親しみのある対応と、個々人の尊重について、振り返りや確認する機会を持っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の尊厳を重視し、個々の身体状態に応じた対応に努め、コミュニケーションを図り、本人からの主訴要望を尊重し、受け入れている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の心身状態を把握し、その時々感情や気分も考慮して個々のペースに合わせた対応を常にこころがけている。 (生活動作・・・全般)		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容師による定期的散髪。また、衣服については毎日洗濯したての衣服を着衣できる配慮をしており、状態により適宜、着替えもしている。本人の好み重視は・・・もちろん！季節・気温に応じ更衣調節にも留意している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしなが、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いのできる方には(引き膳・食器の片付けおよびモヤシのひげとり)などをしていただいている。また・・・身体機能に合わせた食形態の工夫や旬の季節食材を使ったり年間行事に合わせ献立の工夫を実施している「正月、お雛様、端午の節句、敬老の日、誕生日・・・その他」等	管理栄養士による献立をもとに、個別の状況に応じた形状等への配慮を行っている。季節の行事にあわせた食事の提供や、弁当を持ってドライブに出かける等の支援も行われている。調理の準備や後片付けに力を発揮してもらっている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士作成の献立により、必要カロリー摂取維持ができています。それと水分についても同様。摂取量に、ついでには個々の状態に合わせ食事量の調節に努めたり一部見守り、介助と身体機能に応じた支援をしている(処遇記録として、フロシートに記入)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア完行。できない方への対応は職員が行い、入れ歯は夕食後にポリドントで消毒している。また1/Wで歯科往診にて異常チェックや通常では見落としがちな部分のケアチェックおよび口腔訓練や嚥下訓練の指導も受けている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導にて自然排泄できるようパターン表にて実施。また、利用者様の状態によって職員複数での対応を心がけたり自然排便(便秘)できない方には医療との連携のもとに、定期的に緩下剤を使って排便できるようにしている。また昼夜に於いてパット、おむつの使い分けにこころがけている	排泄チェックを行い、個別の状況やパターンの把握に努めている。日中は出来る限りトイレでの排泄となるよう支援し、夜間については個別の状況を鑑み、支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質食材、水分摂取(起床時に飲冷水)、運動・・・腹部マッサージなどで腸の蠕動運動を促す。および緩下剤使用と個々の状態に合わせて対応している		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴前室の保温調節、安全確認に努め3/Wの入浴を実施！必要に応じ適宜入浴。利用者様の要望によって入浴時間の変更受け入れなど利用者様サイドを基本としている。入浴前後の体調把握(バイタル確認)水分の摂取には特に留意しており、また身体状態に合わせて見守り、一部介助、全介助と対応している	基本的な入浴スケジュールは設定しているが、希望や体調、状況に応じて、時間帯も含め、柔軟な対応に努めている。また、個別の状況に応じて、職員2名での対応を行い、安全面に配慮しながら、ゆっくりと入浴できるよう支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の採光調節、室温調節、心地よい寝具や寝衣(布団干し、洗濯)。また精神的安定を維持できるよう日中の活性化により安眠につなげている。それと・・・車椅子利用者、高齢の方には安楽、体圧分散などを兼ねて午前、午後の数時間ベッドで休息できる配慮をしている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の準備、与薬時には二人の職員で、チェックして与薬をする時は、声を出して「日付・名前・朝昼夕・眠」の確認をしている。それと処方箋に目を通し処方薬の内容を確認および把握するように努めている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の身体機能に応じて(食器拭き・洗濯物の整理・掃除)お願いしている。また、外出希望のある方には状況によるが、できるだけ要望に沿うよう対応。それと天候に合わせて戸外散歩や年間行事を作成し催事、誕生日会、ドライブなどを実施している		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	No50と重複するが天候に合わせて近隣の散歩、近くのスーパーへ買い物に行っている。 ドライブについては遠距離の場合、市のボランティアバスを利用することもある	希望や体調、季候等に応じて、近隣の散歩やスーパーへの買い物に出かけている。車椅子の方も、短時間ではあるがベランダでの日光浴を行なうこともある。弁当を持参し、ドライブに出かけることもある。	これまでの関係性の継続や馴染みの場所等、情報収集に努めながら、個別性ある外出支援について可能性を検討し、心身の活性化に向けた支援が期待されます。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の心身状態により殆ど、施設での預かりとなっている。必要な買い物は、家族の了解を得て職員代行・同行の形をとっている。また医療費・理容代等も預かり金の中から対応し、その管理として家族来訪時に収支表、残金、領収証の確認後 押印をいただいている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや、利用者様が外部に連絡をする時はプライバシーを尊重しこころよく応じている 「但し、機能維持の利用者様に限ってとなっている」		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に関する作品や生花を飾って、家庭的な雰囲気を維持している。日中はリビングで利用者様同士が共に過ごし、テレビ観賞・会話ができるように努めている。「採光、テーブルの配置、室温、トイレ、キッチン・・・と限られた空間の中で、できうる配慮に努めている」	車椅子での移動にも十分な広さが確保され、食卓テーブルやソファ、和室スペース等にて、その時々に応じたくつろぎの場所がある。キッチンからは調理の様子が伝わり、また、季節の草花も飾られており、生活感や季節感に配慮された落ち着いた空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室で、テレビを観る方。ラジオを聴く方。リビングで終日過ごす方など個々に応じた居場所の確保ができています。また、リビングでは食事、レクリエーション、その他又、リハビリ時・誕生日会などと多様使用となっている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に際して継続環境維持する為に、本人の馴染みある家具・ぬいぐるみ・その他を持ち込みできるようにしており環境の変化を小さく保つことにしている。また身体状態、今までの環境に応じ室内に畳を敷いたりベッド機能も状態に合わせて対応している	個別の希望や状況に応じて、動線の確保や環境整備に配慮している。写真やぬいぐるみが持ち込まれ、安心して過ごせるよう配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に自分の部屋とわかる工夫をしている。また浴室、トイレなどの明示・バリアフリーの設備に配慮をしている。それと利用者様の行動については常に職員が気をつけて見守り徹底に努めリスク防止を図っている。その他、残存能力を活かして利用者様のできることは極力、自立できるよう支援している		